

2022年3月期 第3四半期決算

決算説明会

2022年1月31日

株式会社 トクヤマ



2022年3月期 第3四半期決算のポイント

- 半導体関連製品やヘルスケア関連製品などの堅調な販売や、石化製品の販売価格上昇などにより対前年同期比で実質増収であったものの、原燃料価格や物流費などのコスト増により減益
- 連結合計の通期業績予想は据え置くものの、3Qまでの実績等を踏まえ、セグメント別内訳を修正
- 販売価格転嫁などの施策を実施し、通期業績予想達成に向けて引き続き注力
- 韓国の高純度IPA合弁会社設立によるICケミカル事業拡大など、「中期経営計画2025」に掲げる事業ポートフォリオ転換達成に向け、成長戦略を着実に実行

CONTENTS

- ① 2022年3月期 第3四半期決算
- ② 2022年3月期 業績予想
- ③ トピックス
- ④ 補足資料

① 2022年3月期 第3四半期決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高／営業利益
3. 営業利益増減分析
4. セグメント別売上高／営業利益増減分析



1. 決算概要

(億円)

	2021年3月期 第3四半期 収益認識基準適用：無	2022年3月期 第3四半期 収益認識基準適用 上段：有、下段：無	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	2,209	2,116 2,471	△93 +262	△4 +12	石化製品価格上昇 半導体関連製品の販売堅調
営業利益	217	171	△45	△21	原燃料コスト増加
経常利益	211	176	△35	△17	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 四半期純利益	193	133	△59	△31	税金費用の増加
1株当たり 四半期純利益 (円)	278.14	185.87	-	-	-
為替 (円/\$)	106	111	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	28,800	53,800	-	-	-

1. 決算概要

(億円)

	2021年3月末	2021年12月末	増 減	主要な変動要因
総資産	3,867	4,022	+154	設備投資に伴う固定資産の増加
自己資本	1,985	2,082	+96	親会社株主に帰属する四半期純利益の積み上げ
自己資本比率	51.3%	51.8%	+0.4ポイント	-
有利子負債	984	928	△56	長期借入金の減少
D/Eレシオ	0.50	0.45	△0.05	-
ネットD/Eレシオ*	0.07	0.13	+0.06	-
1株当たり純資産 (円)	2,758.37	2,894.33	-	-

*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

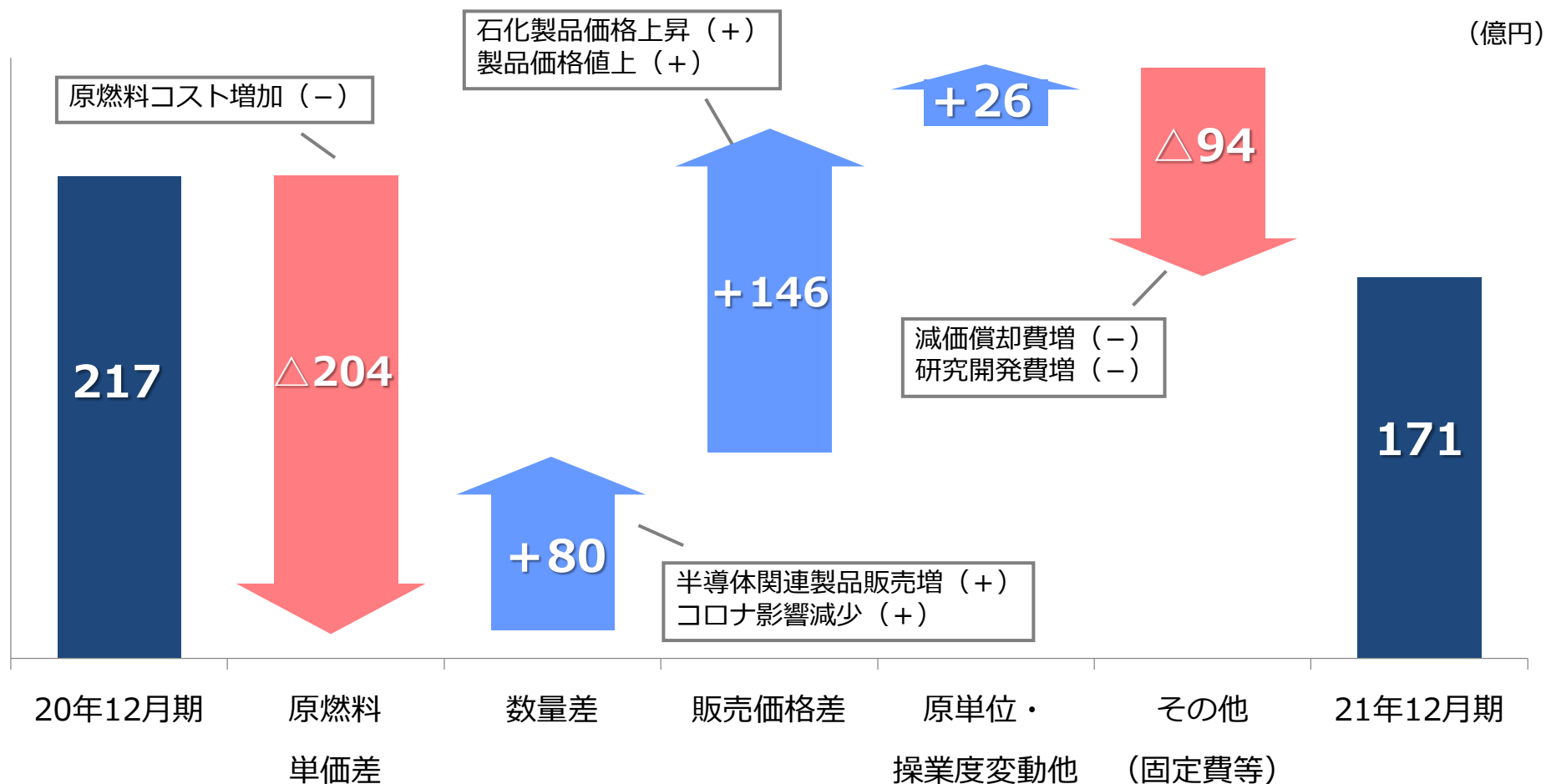
2. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比) (億円)

	2021年3月期 第3四半期		2022年3月期 第3四半期		増 減			
	収益認識基準適用：無		収益認識基準適用 上段：有 下段：無		売上高	%	営業利益	%
	売上高	営業利益	売上高	営業利益				
化成品	580	89	724	99	+144	+25	+9	+11
			735		+154	+27		
セメント	673	38	382	△10	△291	△43	△49	-
			714		+41	+6		
電子材料	440	49	534	49	+94	+21	△0	△0
			536		+95	+22		
ライフサイエンス	196	19	234	40	+38	+20	+21	+115
			234		+38	+20		
環境事業	66	△4	70	△5	+4	+7	△1	-
			76		+10	+15		
その他	491	46	263	28	△228	△46	△18	△39
			436		△54	△11		
計	2,448	239	2,210	202	△237	△10	△36	△15
			2,733		+285	+12		
セグメント間 消去・全社費用	△238	△22	△94	△31	+144	-	△8	-
			△262		△23			
連結決算	2,209	217	2,116	171	△93	△4	△45	△21
			2,471		+262	+12		

3. 営業利益増減分析

(前年同期比)

要因別



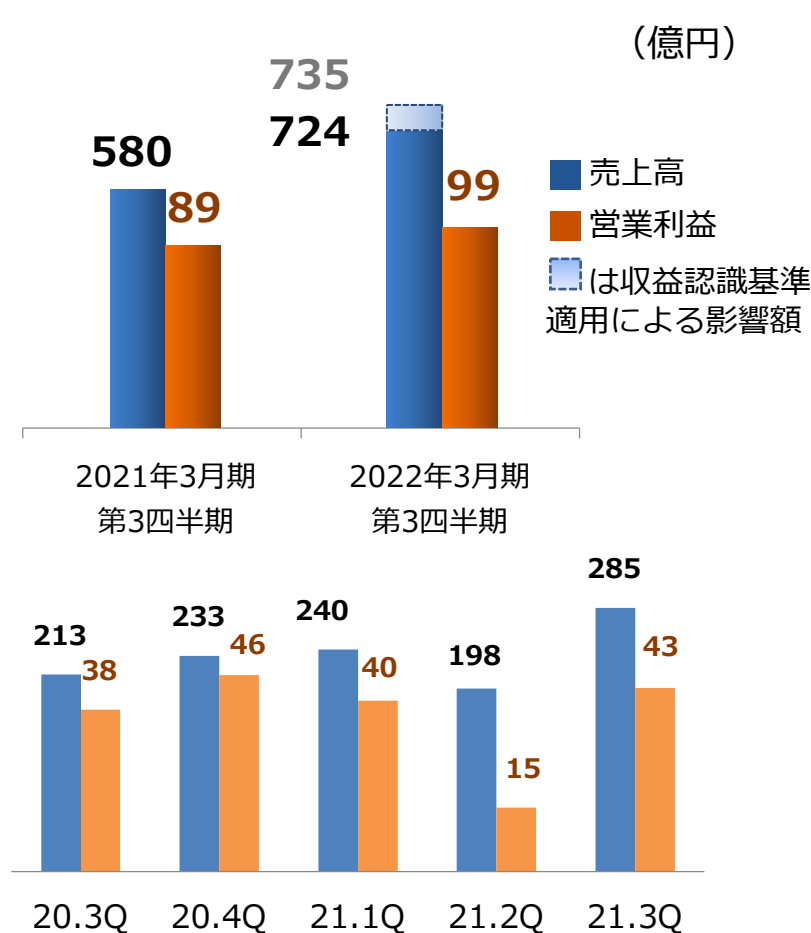
4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

化成品

増収増益

定性情報



(苛性ソーダ)

- ・ 原燃料価格の上昇で製造コストが増加したこと等により減益

(塩ビモノマー)

- ・ 輸出価格が上昇したことにより増益

(塩ビ樹脂)

- ・ 原燃料価格の上昇で製造コストが増加したことにより減益

(ソーダ灰・塩化カルシウム)

- ・ 原燃料価格の上昇で製造コストが増加したことにより減益

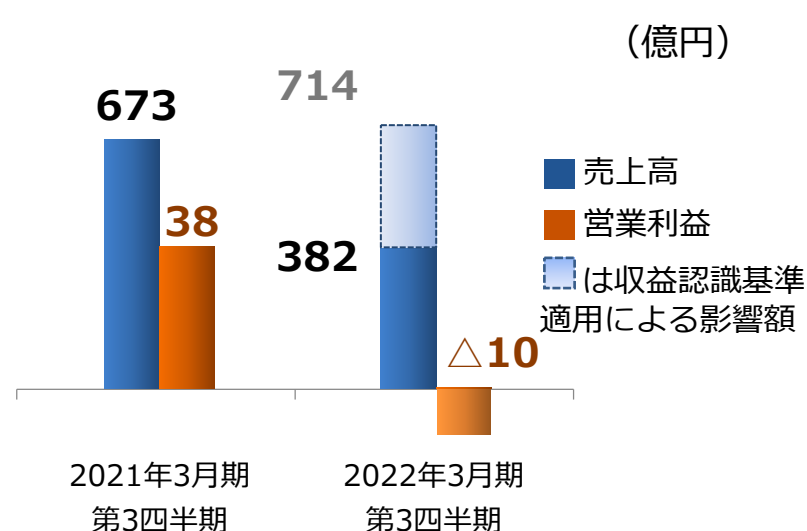
4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

セメント

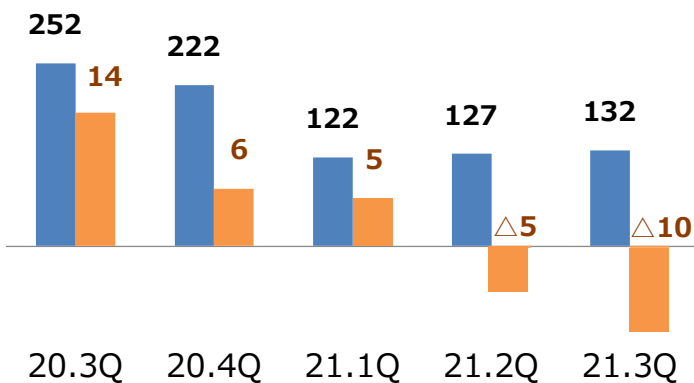
減収赤字転落

定性情報



(セメント)

- 出荷は前年同期並みだったものの、原料価格の上昇で製造コストが増加したことにより損益悪化



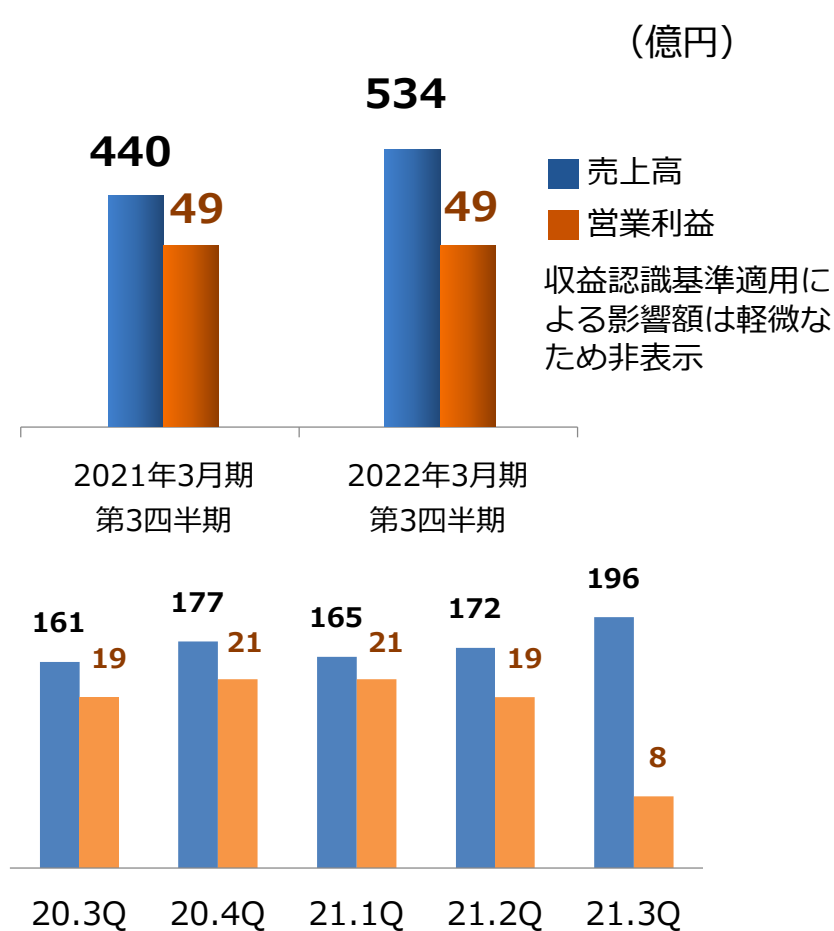
4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

電子材料

増収減益

定性情報



(半導体向け多結晶シリコン)

- 原料価格は上昇も、5Gの導入やリモートワークの増加を背景に販売が堅調に推移し増益

(ICケミカル)

- 海外向けを中心として販売数量が増加したものの、原料価格の上昇等により減益

(乾式シリカ)

- 原料価格は上昇も、半導体用研磨材用途を中心に販売数量が増加し増益

(放熱材)

- 販売数量は堅調に推移したものの、先進技術事業化センターの研究開発費の増加等により前年同期並みの業績

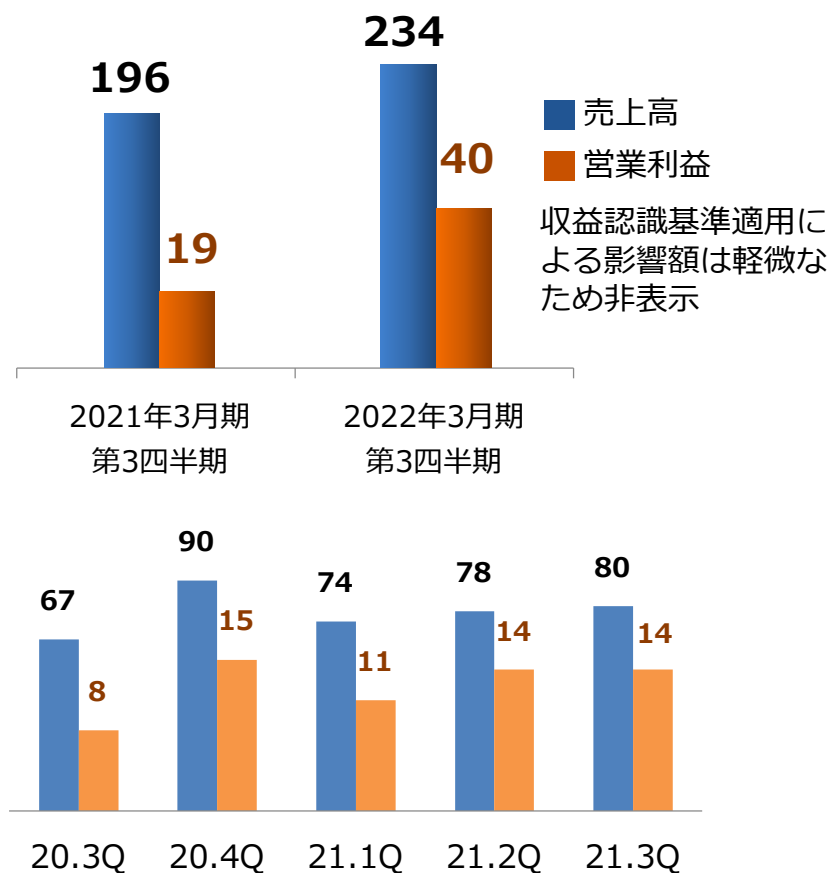
4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

ライフ
サイエンス

増収増益

(億円)



定性情報

(歯科器材)

- ・コロナ影響から減少していた欧米向け出荷の復調により増益

(プラスチックレンズ関連材料)

- ・コロナ影響から減少していたメガネレンズ用フォトクロミック材料の欧米向け出荷の復調により増益

(医薬品原薬・中間体)

- ・ジェネリック医薬品向けの販売数量が堅調に推移し増益

4. セグメント別売上高／営業利益増減分析

(前年同期比)

環境事業

新たな事業展開
を目指し新設

(億円)

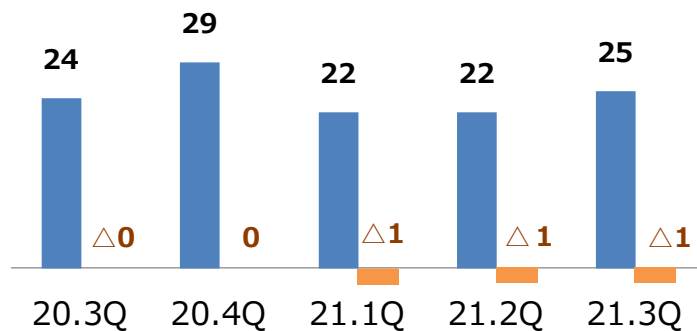
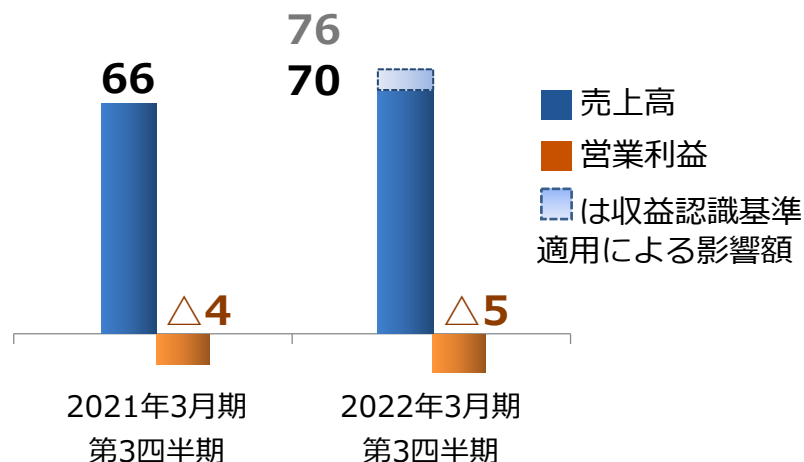
定性情報

(廃石膏ボードリサイクル)

- ・ 廃石膏ボードの受入が堅調だったことにより増益

(イオン交換膜・樹脂サッシ)

- ・ 前年同期並みの業績



② 2022年3月期 業績予想

1. 業績予想
2. セグメント別業績予想修正



1. 業績予想

'21/10/28公表値を据え置き

(億円)

	2021年3月期 実績 収益認識基準適用：無	2022年3月期 予想 収益認識基準適用 上段：有、下段：無	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,024	2,930	△94	△3	コロナ影響改善 半導体関連製品拡販 石化製品の販売価格上昇
		3,370	+345	+11	
営業利益	309	220	△89	△29	先行投資の増加 原燃料コスト増加
経常利益	307	220	△87	△29	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	245	220	△25	△10	経常利益の減少
1株当たり 当期純利益 (円)	351.11	305.66	-	-	-
為替 (円/\$)	106	3Q実績：111	-	-	-
		4Q前提：115	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	31,200	3Q実績：53,800	-	-	-
		4Q前提：60,000	-	-	-

2. セグメント別業績予想修正

'21/10/28公表値から修正

(億円)

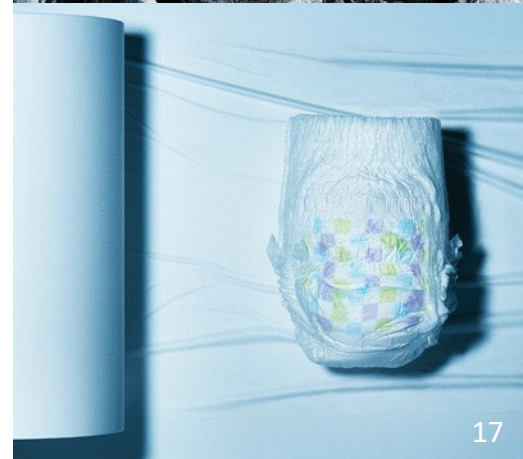
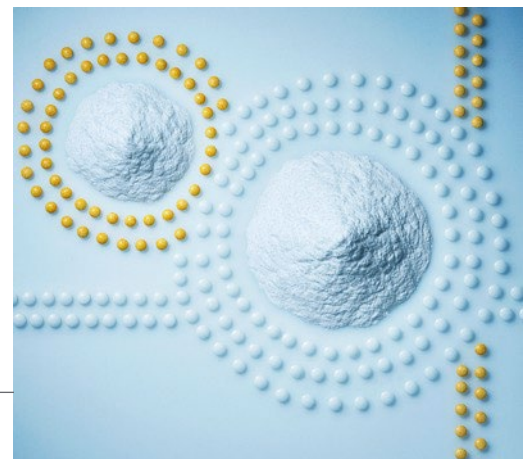
	2022年3月期 予想 (2021/10/28公表) 収益認識基準適用：有		2022年3月期 予想 (2022/01/31修正) 収益認識基準適用：有		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	1,000	145	1,000	145	-	-	-	-
セメント	530	△15	530	△25	-	-	△10	-
電子材料	735	40	735	60	-	-	+20	+50
ライフサイエンス	325	50	325	55	-	-	+5	+10
環境事業	115	0	115	△5	-	-	△5	-
その他	330	40	330	30	-	-	△10	△25
計	3,035	260	3,035	260	-	-	-	-
セグメント間 消去・全社費用	△105	△40	△105	△40	-	-	-	-
連結決算	2,930	220	2,930	220	-	-	-	-

(注) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

連結合計の通期業績予想は据え置くものの、3Qまでの実績等を踏まえ、セグメント別内訳を修正

③ トピックス

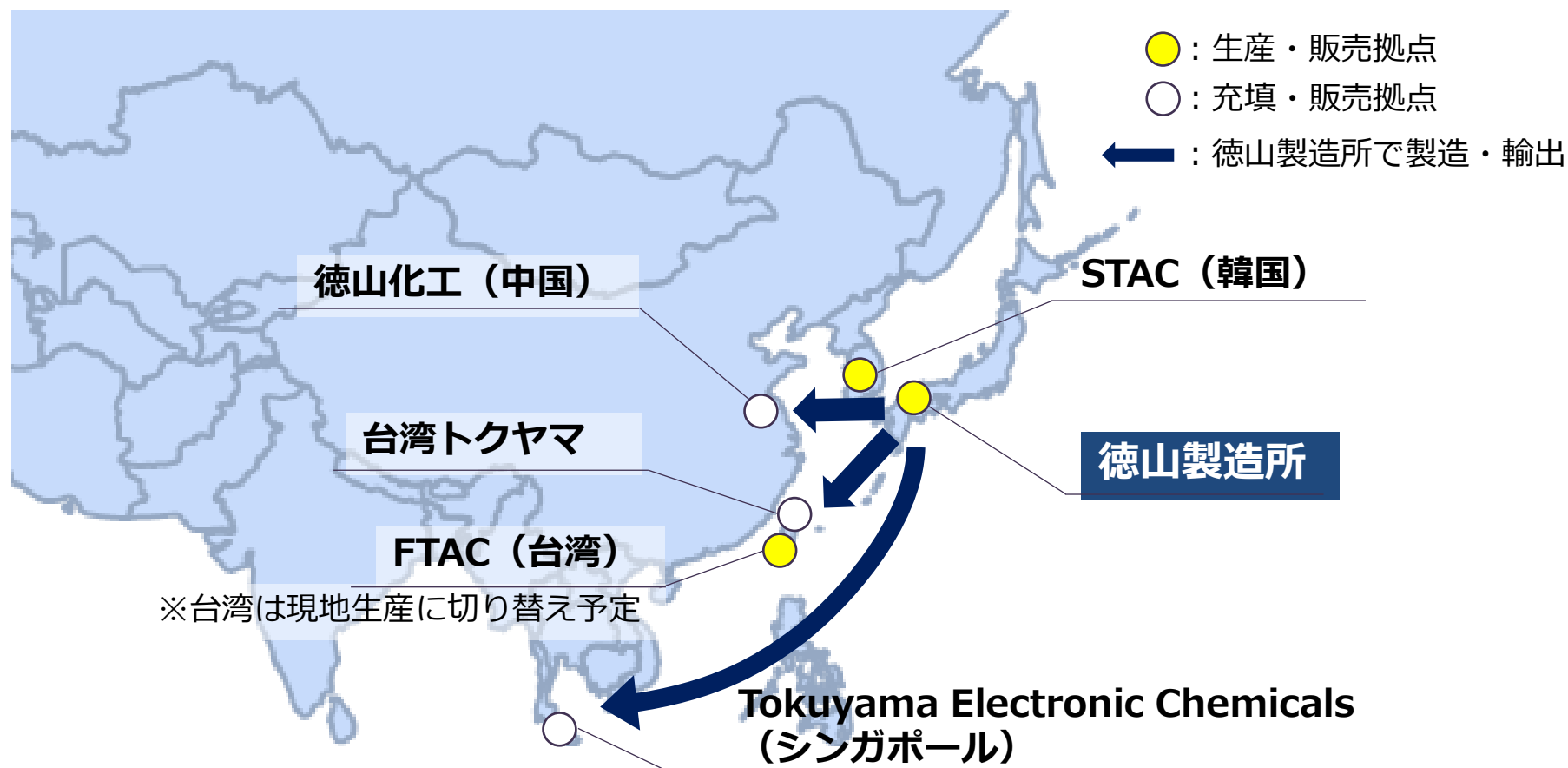
1. 成長事業への投資・国際展開加速



③ トピックス

1. 成長事業への投資・国際展開加速

- ✓ 台湾に続き韓国に高純度IPA製造販売の合併会社設立を決定
- ✓ 大手顧客のいるそれぞれの市場に生産拠点をもち、ICケミカル事業の成長を加速



もっと未来の人のために

TOKUYAMA 

④ 補足資料

1. 連結財務諸表（要約）
2. 業績推移



1. 連結財務諸表（要約）

損益計算書

（億円）

	2021年3月期 第3四半期 収益認識基準適用：無	2022年3月期 第3四半期 収益認識基準適用：有	増減	
			金額	%
売上高	2,209	2,116	△93	△4
売上原価	1,515	1,418	+97	+6
販管費	476	526	△49	△10
営業利益	217	171	△45	△21
営業外損益	△5	5	+10	-
経常利益	211	176	△35	△17
特別損益	4	21	+16	+334
税前四半期純利益	216	198	△18	△9
法人税等	19	64	△44	△229
非支配株主利益	4	0	+3	+97
親会社株主に帰属する 四半期純利益	193	133	△59	△31

（注）差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

1. 連結財務諸表（要約）

貸借対照表

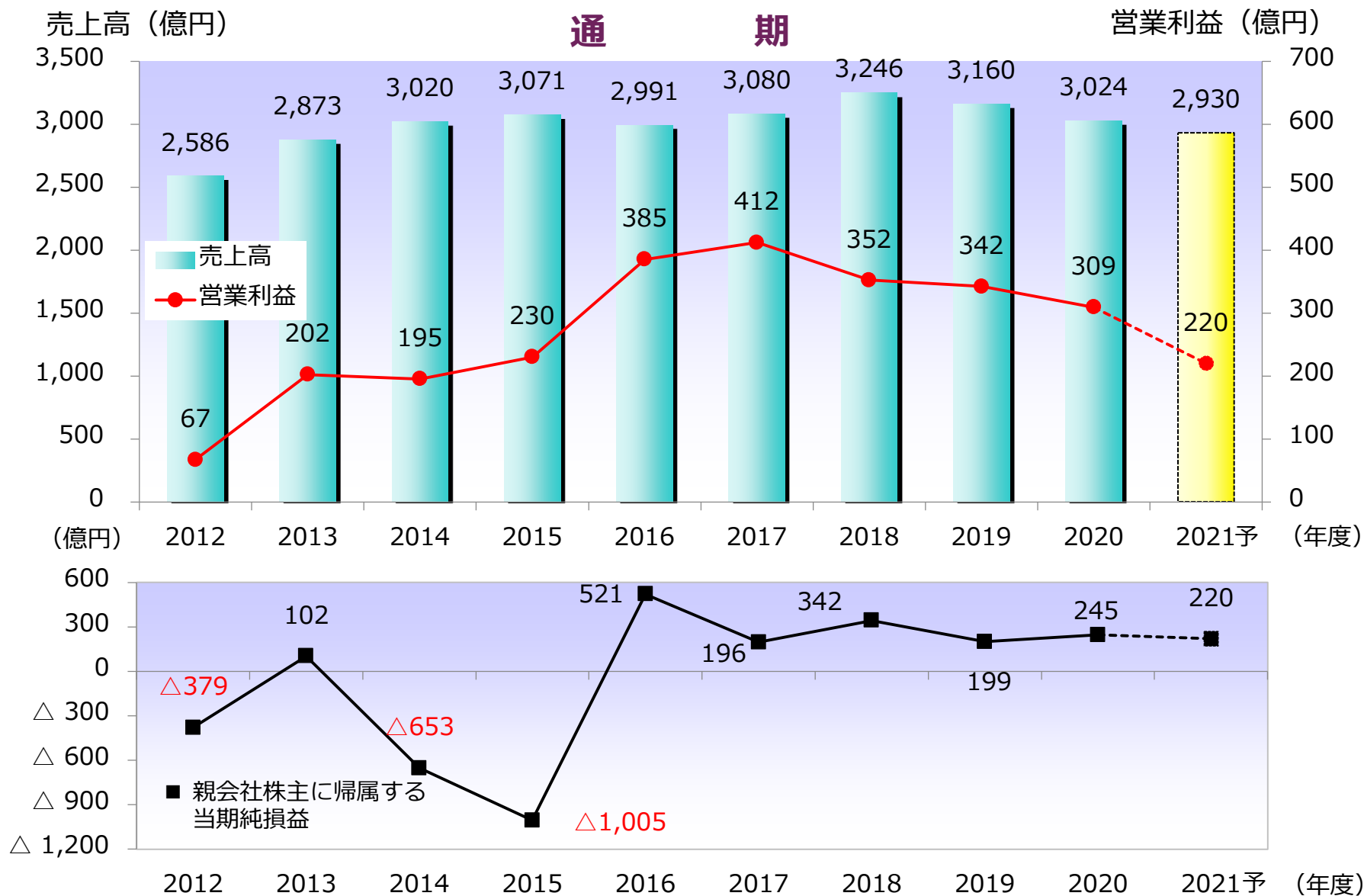
（億円）

	2021年3月末	2021年12月末	増減	
			金額	%
資産合計	3,867	4,022	+154	+4
流動資産	1,997	2,024	+26	+1
有形固定資産	1,240	1,351	+110	+9
無形固定資産	18	23	+4	+23
投資その他の資産	611	623	+12	+2

	2021年3月末	2021年12月末	増減	
			金額	%
負債合計	1,815	1,858	+42	+2
流動負債	833	1062	+229	+28
固定負債	982	795	△186	△19
純資産合計	2,052	2,164	+111	+5

④ 補足資料

2. 業績推移

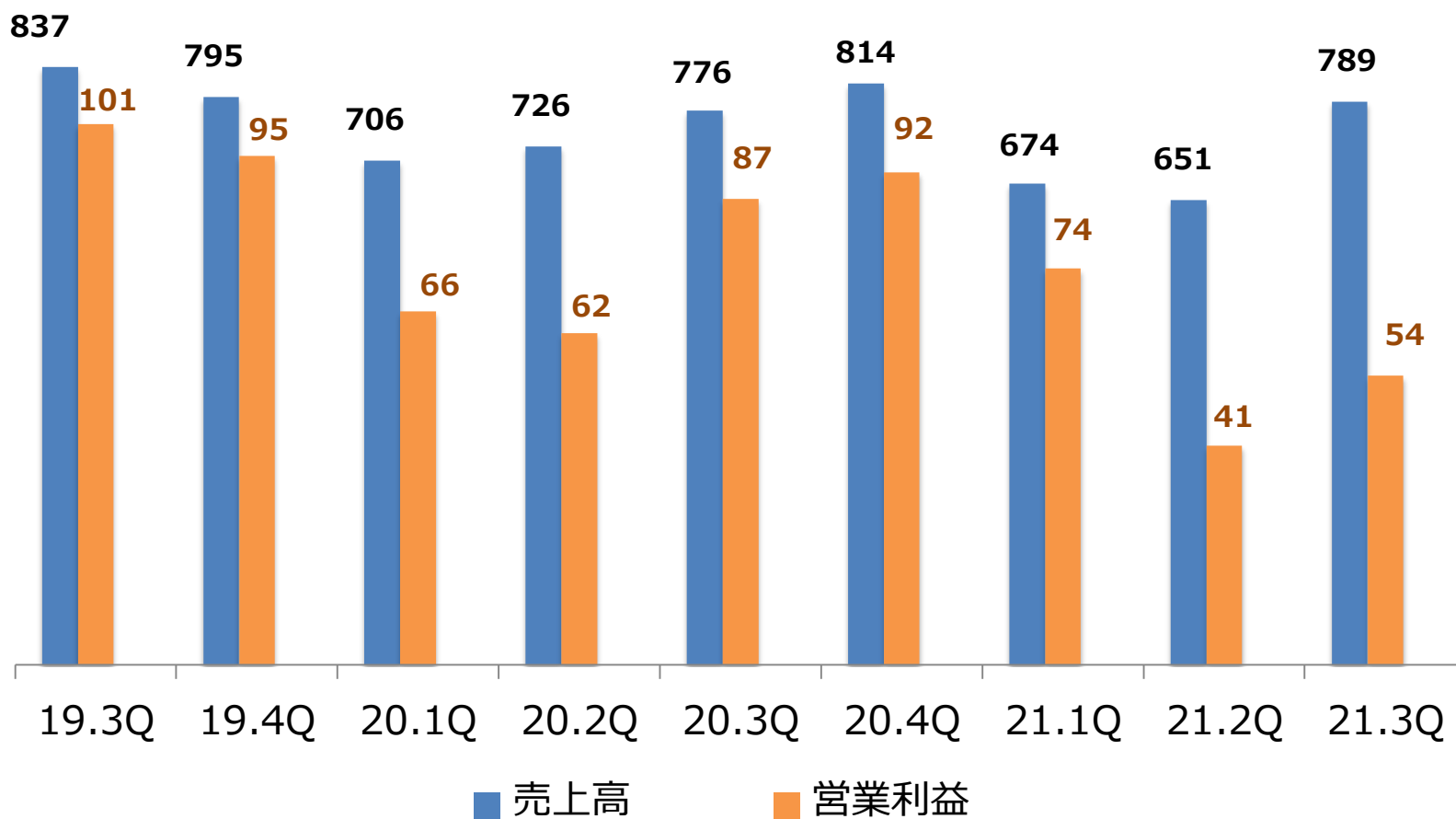


2. 業績推移

連結

四半期

(億円)



本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 